

～ たくましく 感謝(かんしゃ)の心をもち 真剣(しんけん)に 学(まな)び合う 高島っ子～



高島小中学校だより

5つのお願い：5 とともに創り、ともに輝こう

第14号 令和4年7月20日 校長 谷坂 利浩



夏休み前の3連休は、例年なら梅雨明けを知らせるような雷を伴う激しい雨が降りましたが、この後はいよいよ夏休み、南国高島に夏がやってきます。前号では、ブーゲンビリアの花の写真を掲載しましたが、高島の夏には、やはり**ハイビスカス**が似合います。



16日には高島海水浴場の海開きが行われました。子どもたち、これからの夏休み、海水浴を満喫するものと思います。ただ、学校では、「外には10時以降に出かけるように」と「海水浴は子どもだけでは行かないこと」を指導しておりますので、ご家庭でもよろしくお願ひします。海の中に入っても汗はかくもの、気づかないだけで脱水症状になります。また、本来、かいた汗が蒸発してその気化熱で体温を下げますが、海の中では蒸発できないため体温が下がりません。こまめな水分補給が肝心です。ともかく前日に発表される熱中症警戒アラートを気にしておいてほしいと思います。



さて、1日の新規コロナ感染者数はあれよあれよで、800人強となり、県は感染段階を**レベル2-II**に引き上げました。(学校の行動に関する基準(文科省「学校の新しい生活様式」)でも、レベル1から**レベル2**になっています。)メディアでは「第7波到来」との報道を耳にするようになりました。改めて、新型コロナウイルスの感染力、変異の強さを危惧するところです。

(中学校の修学旅行については、今後の状況(感染段階レベルや行動制限等)を見ながら、この後、夏休みに入りますが、各ご家庭に連絡してまいります。)

[1学期 始業式で]

最初に、1学期を振り返ってでは、小学2年生と中学2年生が、

「町探検でパトカーの中を見れて嬉しかった」、

「プールでしっかり泳げるようになった」、

「パソコンでローマ字入力に挑戦した」、

「漢字をいっぱい覚えた」、

「雲梯(うんたい)を1つとばしで進めるようになった」、

「壁倒立にチャレンジした」、 「図工で、布や棒を使って、すてきな作品をつくった」、

「夏休みもプールに入りたい」、 「2学期、掛け算を頑張ります」、

「次はリズムに合わせて太鼓をたたきたい」や、

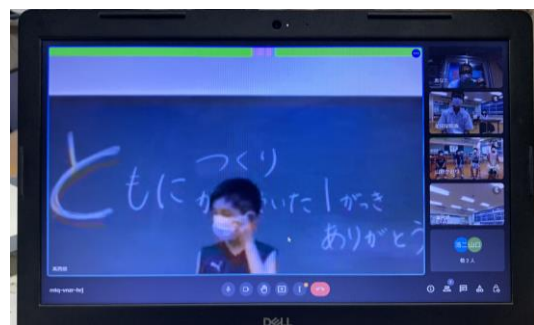
「楽しく充実した学校生活を過ごすことができた」、

「無遅刻・無欠席を、これからも続けていきたい」、

「夏休み、職場体験や修学旅行と大きな行事があるが、勉強もしっかり取り組み、

両立と、メリハリのある生活をしていく」

と、発表してくれました。



今年度の5つのお願いの1つでもある『目標をもち、いろんなことにチャレンジしよう』を、難しいと感じても、頑張っ、練習し、できたという達成感と、次また頑張ろうという思いが伝わってきました。そんな子どもたちを誇らしく感じたところです。



私からは、子どもたちに、夏休みの3つのお願いとして、

- 「1 心掛けてほしいこと：熱中症対策」、
- 「2 気掛けてほしいこと：不審者に注意」、
- 「3 取り組んでほしいこと：夏休みの自由研究～不思議を見つけて、調べてみよう～」を話しました。

そして、最後に、夏休みの生活心得、生活のきまりについて、特に、次の4つを確認しました。

- 「1 生活のリズムを崩さない 起きる時間と寝る時間が普段と大きく変わらなければ、大きく崩れることは無い」、
- 「2 出かけていいのは午前10時から、帰宅は、小学生は午後6時、中学生は7時には家に帰るように」、
- 「3 熱中症や感染症を予防しよう 油断することなく今の対策を続けてほしい 自分の体は自分で守る」、
- 「4 メディアの利用はルールを守って ゲームやスマホをずるずると続けない」

ご家庭でもご確認ください。

これから始まる楽しい夏休み。事故、怪我にあうことなく、充実した日々を送れることを祈念し、1学期最後の学校だよりとします。

最後に・・・

○ 子どもたちの心のケアについて

突然の安倍元首相の悲しくも痛ましい事件、先が見えないウクライナでの戦争と、連日、様々なニュースが各メディアで流れています。それに伴い、衝撃的な動画等が繰り返し流れ、子どもたちがそれらに触れることにより、強い心理的負担を受ける等、心への影響が懸念されているところです。

この夏休み、今まで以上に、メディアに触れる時間も増えることが予想されます。

学校でも、ストレスを感じたりしたときは、無理して見ることは無いんだよ、いやな場面になったらそこから離れることも大切、と子どもたちに話をしているところですが、どういう状態が自分にストレスとなっているか分からない場合もあり、知らず知らずのうち、心のダメージとして蓄積してる場合もあるかと思われます。

つきましては、先般からお願いしておりますメディア利用についての家庭でのルールづくりで、使用する時間ももちろんですが、内容等についても、ご家庭でお話する機会を設けていただき、気掛けていただきますようよろしくお願いいたします。

